

渡辺 げんたろう

町田市議会議員
町田市政報告

渡辺 厳太郎



～ 町田市政に新風を！ ～

昭和48年 町田市玉川学園生まれ 玉川学園在住
玉川中央幼稚園／町田市立第五小／町田市立南大谷中／都立町田高校／日本大学法学部法律学科卒／
新光証券(現みずほ証券)勤務／保険代理店勤務／平成22年町田市議会初当選 平成26年 2期目当選
消防団第一分団第五部部长／エイサー町田琉二代目会長／消防少年団副団長／神輿会「幸神睦」会員

過去の実績の一部紹介

- ◎ アメリカ海軍厚木基地・横浜市との**災害時応援協定締結を実現**
- ◎ 公共施設が使用する**電気料金の大幅削減を実現**
- ◎ **ガン放射線治療(先進医療)の導入**にむけて市政を前進
- ◎ HPVワクチンの**接種勧奨中止を実現**

党利、党略、政局よりも
町田が良くなることを
第一義に！

詳しくは、ホームページをご覧ください → [渡辺げんたろう](#) で検索！！
[フェイスブック\(渡辺厳太郎\)](#) → 日々、活動を掲載中！フォローしてください！

◆ 南大谷小学校の通学路に防犯カメラが設置されます

◆ 『たまちゃんバス』玉川学園南ルートの巡回バスが確保されました

2014年9月議会において、新たな『たまちゃんバス』購入の評決が可決されました。
市民の足であるコミュニティバスのルート拡充は長い間の懸案事項であり、地域と行政とで話し合いが進められ、事業の採算性や道路の幅員の検討、駐輪場の設置や無断駐輪の撤去などを経て、実現に至りました。交渉を進めてこられた玉川学園町内会の皆様、お疲れ様でした。

2014年6月議会 渡辺げんたろう一般質問

- ◎ シティプロモーションについて・・専門家の登用を提言→市長から前向きな答弁、今後に期待！
- ◎ 中心市街地について・・3年近くそのままになっていた長崎屋跡地について、魅力ある街づくりの観点から活用支援を提言→予算確保が実現されました！
- ◎ 体感治安について・・行政に先立って商店街や町内会で取り組んでいる事業に対し、町田市としても一歩進んだ協力をするよう提言→実現されました！
- ◎ 市民病院について・・市民病院の将来像について議論し、ガン放射線治療や救急救命の必要性を主張→専門家による検討委員会が設置されることになりました！

2014年9月議会 渡辺げんたろう一般質問

- ◎ 子ども子育て新支援制度について・・子育てにおける家庭の重要性と在宅子育て支援策を提言
- ◎ 埋蔵文化財について・・埋蔵文化財の価値ある活用方法と保管費用の軽減について提言
- ◎ 道徳教育について・・道徳教育の重要性と副読本の活用を提言

「玉川学園ふるさと計画」始動！2014年7月、玉川学園北口商店街夏祭りで挑戦した、

ベートーベン交響曲第九番（歓喜の歌）合奏・合唱フラッシュモブ。ご覧になった方、参加していただいた方も沢山いらっしゃると思います。

初めての企画に毎晩眠れないほどのプレッシャーがありましたが、夢を実現するべく、当日まで精一杯努力してきたところ、多くの方に参加していただき、大成功といえる結果に終わったこと、改めて感謝申し上げます。

♪ 始めた理由

玉川学園で生まれ育った私にとって、幼少期の夏の思い出は、今は亡き母に浴衣を着せてもらい、手を引いて連れて行ってもらった町田第五小学校の盆踊りです。現在の商店街夏祭りの原型となった、かつての盆踊りは、実は昔々の消防団の先輩方が作り上げ、継続してきたものでした。神社仏閣がないこの街の子供たちのために、夏祭りを作ってあげたかったという先輩の思いを知ったとき、私は大変感動しました。同時に、自分たちが始めなければこの街の子供たちの思い出を作れないという使命感を感じ、これまで、エイサーや消防団活動を通じてお祭りに参加してきました。

今年は、「文化薫るまち・玉川学園」ならではの「お祭り」を、「地域の皆さんと共に」つくりあげ、玉川学園をふるさととする子供たちの共通の思い出づくりをしたいと思い、企画を始めました。歓喜の歌は、玉川学園大学の伝統でもあり、地域の歴史と深くかかわりがある曲です。

♪ 当日まで

企画を考えてから私が初めにしたことは、トランペットの購入でした。体育会系一筋で生きてきて楽譜も読めない私ですが、何事も自分から始めなければ人の心に伝わらないという信条をもっているため、人生初めてのトランペットを手に入れました。一人前といえるレベルではありませんが、約2ヶ月の猛練習で何とか演奏できるようにしながら、同時に、一緒に企画を進めてくれる仲間を集め、地域の方にお知らせし、誰もが参加できるような演出を考え、準備してきました。

♪ 当日の様子

⇒ [渡辺げんたろう](#) ホームページで「玉川学園ふるさと計画」の動画をご覧ください！

歌詞カードを手にした奥様方、ビールを片手にもった大学生、娘さんに手をひかれてきたおじいさん、少女のように目を輝かせるおばあさん、夏の夜を楽しむ中学生達。

老若男女それぞれの人生が、歌と演奏を通じて目に見えるようでした。

隣で歌うのは見知らぬ人、だけどこの地域に住んでいる人。それだけが共通している人々が、同じ時に同じ歌を歌い、この瞬間を一体になって楽しんでいる。

これが夏祭り、これこそが地域づくりだと、使命感を一層強くしました。

♪ まだまだ続きます！

まだまだ、やりたいこと、夢膨らむことはたくさんありますが、地域の方々数が多く参加してくださり、中には「来年まで頑張る楽しみができた。寿命が延びた！来年、また歌いに来るよ。」と言って帰られたご年配の方もいて、今回はきっと成功だったのかなと感じています。

この企画が、企画ではなくこの地域の伝統になり、生きる楽しみや子供たちの記憶になることを願い、来年に向けてさらに前進していきます！